

議題 「『ことぶき会のみな様、ありがとうの会』を開こう」

(学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

<b>1 目指す児童の姿と付けたい資質・能力</b>		
自分たちのためだけでなく、他者のために考え、行動する力を育てたい。 みんなの意見を認め合ったり高め合ったりしながら合意形成を図ることができるようにしたい。		
<b>協働性</b>	<b>主体性</b>	<b>創造性</b>
学級全員で会をつくり上げるために、互いのよさを生かし合い、協働して取り組もうとしている。	合意形成したことに對してみんなの気持ちをつにして取り組もうとしている。	みんなの意見を高め合いながら合意形成を図ろうとしている。



<b>3 評価規準</b>			
<b>観点</b>	<b>よりよい生活を築くための知識・技能</b>	<b>集団や社会の形成者としての思考・判断・表現</b>	<b>主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度</b>
<b>評価規準</b>	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を見出し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。
<b>目指す児童の姿</b>	合意形成したことに對して、気持ちを一つにして取り組むことの大切さについて理解している。	みんなの意見を認め合ったり高め合ったりしながら合意形成を図ろうとしている。	学級全員で会をつくり上げるために、互いのよさを生かし合い、協働して取り組もうとしている。

<b>2 題材について</b>	
<b>(1) 児童の姿</b>	<p>本学級の児童は、これまでに学級会を7回行ってきており、計画委員も全員が経験した。学級会では、一人一人が自分の意見をもち、心配な意見が出た場合は、納得するまで話し合うことができている。</p> <p>一方、一人一人の意見を「認め合う」ことはできるようになったが、「高め合う」までに至っていないことが課題である。「高め合う」が活性化するように司会が進行しようとするが、少数の児童が反応して応えているだけで、全体としては一つ一つの意見を深くまで考えることができている。</p>
<b>(2) 題材設定の理由</b>	<p>本議題は、「収穫祭を通して、お世話になった地域の方にお礼をしたい。」という児童の願いや思いを議題化したものである。これまで、児童は、総合的な学習の時間「米づくりを体験しよう」で、地域の方に教わりながら田植えや稲刈り、脱穀をしてきた。一つ一つの体験を通して、地域の方に支えられているという実感が高まっている。だからこそ、地域の方という相手意識と、感謝を伝えるという目的意識をもって話合いをすることができると考えられる。また、地域の方が高齢であるため、相手の立場になって考え行動する力も付くと考えられる。</p>
<b>(3) 指導にあたって</b>	<p>集団活動への参画意識を高めるために、他教科との関連を図る。社会科では米づくりの工夫や努力、道徳科では相手意識の醸成など、話合いの土台となる知識を身に付けるとともに、思いを共有化する。また、会に向けて「総合的な学習の時間」を活用する。その際、学級会ノートに書いた自分のめあてを定期的に振り返ることで実践の継続化を図るようにしたい。</p> <p>振り返りは、学級会当日と集会活動後に行う。それぞれの振り返りで、自分や友達の成長や変容に気付けるようにする。具体的には、5つの項目を数値化し、4段階で評価する。また、自分の成長や友達のよいところなどを記述することで、自分の思いや考えを表現できるようにする。これをもとに交流することで、より一層自分のよさや成長に気付けるようにしたい。</p>

4 指導と評価の計画

(1) 事前の活動		(2) 本時の展開			(3) 事後の活動	
活動内容と教師の支援		本時のねらい 意見を高め合いながら、話し合いをまとめ、内容を決めることができる。			活動内容と教師の支援	
7 月 中	社会科「米づくりのさかんな地域」 食料生産が人々の工夫や努力によって支えられていることを学習する。	話し合いの順序	教師の支援	目指す児童の姿と評価方法	10 月 31 日	学級会ノート②の記入 役割分担し、自分の役割を確認した上で、自分のめあてを決める。
	5 ~ 10 月	総合的な学習の時間「米づくりを体験しよう」 田植えや稲刈り、脱穀を体験する。	1 はじめの言葉 2 計画委員会の紹介 3 議題、提案理由等の確認			○ 事前の計画委員会で、自分のめあてが言えるようにする。
10 月 中旬	国語科「どちらを選びますか」 互いの立場や意図を明確にしながらかし合素地を育てる。	4 先生の話	○ これまでの活動を写真で振り返ることで、地域の方に支えられているという思いが高まるようにする。	○ みんなの意見を認め合ったり高め合ったりしながら合意形成を図ろうとしている。(思・判・表) [観察・ワークシート]	12 月 16 日	「収穫祭」(ありがとうの会) 自分のめあての達成に向かって努力している児童を称賛する。
10 月 下旬	計画委員会 議題の選定から話し合いの進め方の確認まで行い、適宜支援する。	5 話し合い 柱1 感謝の気持ちを伝える内容 ○ 出し合う ○ 認め合う・高め合う ○ まとめる	○ 「感謝を伝える」という観点が、ぶれないように助言する。 ○ 必要に応じて、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さを助言する。		12 月 19 日	振り返り(学級会ノートの記入) 友達や学級のよかったところについても認められるように助言する。
	道徳科「おばあちゃんからもらった命」 自分にできることを進んで行おうとする実践意欲と態度を育てる。	6 決まったことの発表	○ 自分だけでなく友達や学級のよさに気付くことができるよう、助言する。			
	学級会ノート①の記入 意見とともに理由や根拠を書くように指導する。	7 振り返り 8 先生の話 9 終わりの言葉	○ 学級会のよかった点、課題、今後の見通しなどについて簡潔に述べる。			
(4) 新しい活動		相手意識をもったイベントを企画し、実施する。(例:「新一年生との交流会をしよう」など)				
他教科等との関連		社会科「米づくりのさかんな地域」 国語科「どちらを選びますか」 道徳科「おばあちゃんからもらった命」 総合的な学習の時間「米づくりを体験しよう」「収穫祭」をしよう				